

「趣味が高じて定年後に開業。何も無いところに新しい足跡をつけていく楽しみ」

元安城市職員

高橋忠夫さん (62 歳)

平成 22 年 3 月定年退職

昭和 24 年愛知県刈谷市出身。昭和 48 年 4 月安城市入庁。体育学部出身ということもあり、37 年の勤務のうち社会体育、生涯学習に 27 年携わる。インターハイと国体を担当した際には、開催前から同僚と体育館に泊り込んだのも懐かしい思い出となっている。平成 22 年 3 月定年退職後、同年 11 月「高橋自転車商会」開業。



33歳のロードレース初参戦から60歳で定年退職するまで、職場の仲間のおかげでロードレースを続けられました

——高橋さんはもともと自転車に興味があったそうですが……

私が自転車の楽しみを知ったのは高校1年の時、5段変速のサイクリング車を買ってもらったのがきっかけでした。高校2年の夏には25日間で東北を、大学4年の時には9カ月をかけ東北・北海道を一人でサイクリングしました。

自転車の魅力にとりつかれていた私は、将来フレームビルダー（自転車制作者）になりたいという夢を抱いていましたが、高校の恩師の勧めで受けた市役所の採用試験に運良く合格。両親の喜ぶ顔に負けて地方公務員の道に進んだものの、夢はずっと持ち続けていました。

市職員となってからも自転車部に入ったり、山道を走るロードレースに参加したりと、自転車は私にとって何よりの趣味でした。

——いつ頃から、自転車店を開こうと？

50歳の時、市民の皆さんと接する公民館の仕事につき、利用者から「ありがとう」の声をたくさん頂きました。これを機に「ありがとうと言われる仕事がいい」との思いが膨らんでいきました。

その後、大好きな自転車での役に立ちたいと思うようになり、57歳の時、自転車の基礎技術の勉強をスタート、自転車整備士などの検定も受けました。同時に妻に脱サラを相談しましたが、介護のため早期退職を余儀なくされた経験をもつ妻から「勤め上げることも大事」と説得され断念。自

営業の友人からも説得されました。

——定年退職から7カ月後に高橋自転車商会をオープンされましたが、お店の経営はいかがですか？

開業を明日に控えた日、自宅入口に看板を1枚立てました。開業当日、誰も来ないだろうと思っていたら、パンク修理のお客様が来店。その後1カ月でなんと8人のお客様が来てくださいました。皆さんパンク修理に困っていたようで「お店ができて安心した」と口にされていました。

自転車店と言っても、自転車の販売は多額の資金と広いスペースが必要なためカタログ販売しかしていません。メインは自転車修理で、出張修理も行っています。来店者は年齢の高い方がほとんどで、自転車を大切にしている方が多いようです。それに対して、出張修理は若い方が多く、自転車を消耗品ととらえているようです。

現在はパンク修理が月に15件ほどで商売としては全く成り立ちません。でも2日に1回「ありがとう」と喜んでもらえて修理代金も頂けます。こんな仕事ってすばらしいと思いませんか？

友人達がHPに何度もアクセスしてくれたお陰で、今では「パンク修理」「刈谷市」と入力するとインターネット検索のトップに表示されるようになりました。

お客様の希望は様々で、私の思いとは相反することが多々あります。まずはご希望を聞かせてもらい、納得して頂いてから修



(右) 昭和36年式の三輪ミゼットは出張修理の相棒です
(左) 15歳から60歳までの間に延べ36台の自転車を手にしました。手元に残っているのは13台ほどで、すべてに思い出がいっぱい詰まっています (妻に感謝です)

●1日のスケジュール

6:30~ 9:30	起床、朝食、自宅庭の整備
10:00~18:00	自転車修理・出張修理業務&趣味の旧車レストア
19:30~22:00	夕食、インターネットのつぶやき書込み
22:00~	就寝
※5月から9月は早朝トレーニング (2日に1回)。5時から2時間 (40km) あまり走っています	

●1週間のスケジュール

月曜~土曜	営業日なので上記のスケジュール
日曜	サイクリング、買物、月に一度の連休は妻と旅行 (なかなか行けませんが…)



自宅の一部を改装して自転車店をオープン。バンク修理が主な仕事です

理をします。満足のいくことばかりではありませんが、お客様にとって何が一番よいかを常に考えながら仕事をしています。

大変なことはありますか？

当たり前とはいえ、営業時間中は来客や携帯電話に拘束されることが結構苦痛ですね。今までは自分の思い通り足の向くままだどこへでも行けたのに、自営業に対する心構えが足りなかったかな。自営業となった分、妻にも負担をかけています。

市職員の時と比べての違いは？

開業後は自分の勉強不足やミスなどお客様に迷惑をかけ、何度か冷や汗をかきました。妻の支援はありますが、技術面でカバーしてくれる人は他にいません。自分一人で全責任を負わなければいけないことを実感し、現職時代、上司や仲間にとれほど助けて頂いていたか気づかされました。見えないところで支援を頂いていることに、感謝したいものです。

その他、何か活動されていますか？

昨年4月から自治会組織の役員として地元行事の企画運営にあたっています。10年ほど前から関わっているのは、町内で約200年続いている「奴のねり」(平成11年刈谷市無形民俗文化財指定)の伝承活動で、今は事務局を担当しています。後継者不足で毎年四苦八苦していますが、どこに出しても恥ずかしくない伝統行事と誇りに思っています。

その他ボランティアというほどではない

ですが、病院の車椅子の点検と清掃を個人で月1台をノルマに続けています。

自転車以外の楽しみは、銭湯・古書店めぐり・旧車のレストア(修理)です。旅行先では、事前に調べた銭湯、古書店を歩きます。

銭湯ならではの裸の会話もあり、古書店では思いがけない本が待ってくれています。

定年退職後の生活を充実させるために必要なことは何だと思えますか？

私の場合は「再雇用は希望しない」という思いが一番だったと思います。「何も無いところに、新しい自分の足跡を一步步つけていく」との強い思いが必要ではないでしょうか。

最後に、現役の地方公務員へのメッセージをお願いします。

私は50歳を機に公務員仲間の交友を無理に広げないと決め、公務員以外の方との交流を積極的に行っていました。現在の仕事もそのお陰だと思っています。生活の基準を外に向けるほうが、ゆったりできるような気がします。自分を他人と比較しない毎日心にかけていけば、穏やかな気持ちで過ごせるのではないのでしょうか。

